

志す宇宙は無限 6月号

令和8年度

発行：楠隼高等学校 宇宙部

「志す宇宙は無限」、久しぶりの校外進出!

本壁新聞は、先月号から宙(そら)の家「肝付町内之浦」と、せんだい宇宙館「薩摩川内市」での掲示がスタート。今月号で、掲示に至った経緯とそれぞれの施設を紹介したい。

まず、掲載に至った経緯についてである。本新聞は以前にも、宙の家で掲示されていた時期があった。本新聞の発行を始めた当時の部長は積極的に執筆活動を行い、楠隼高校宇宙部のことはもちろんだが、宇宙の魅力を多くの人に伝えたいという強い思いから、肝付町役場を通じて宙の家での掲示を始めた。しかし、部員の新旧交代等の事情で2024年6月から約1年間、休刊となっていた。昨年度、前部長の末利仁先輩らが本新聞を復活させたものの、休刊期間の影響で、掲示は校内と楠隼HP掲載のみとなっていた。今年度は、さらにレベルアップした楠隼高校宇宙部をより多くの人に知ってもらいたいという思いから、顧問の先生方の協力を得て、校外での掲示が実現した。

次に、掲示いただいている施設を紹介する。

一か所目は、「宙の家」である。宙の家は、2019年8月にオープンした、JAXA内之浦宇宙空間観測所の近くに位置する土産ショップである。運営は、肝付町を「宇宙のまち」としてPRする団体、一般社団法人きもつき宇宙協議会が行っている。店内には、JAXA公式宇宙グッズや宇宙食、きもつき宇宙協議会オリジナルグッズ、肝付町観光協会オリジナルグッズ、地元産の辺塚だいたい関連商品など、さまざまな土産品がそろえられている。楠隼高校と同じ肝付町内に位置しているため、生徒や保護者の方々も、JAXA内之浦宇宙空間観測所を訪れる際には、ぜひ立ち寄ってみてはいかがだろうか。



↑せんだい宇宙館 (画像:かごしまの旅)



↑宙の家 (画像:肝付町観光案内所)

二か所目は、「せんだい宇宙館」である。せんだい宇宙館は、「寺山いこいの広場」内にある、天文台と展示施設が融合した体験型の天文施設である。九州屈指の50センチ反射望遠鏡を備え、鮮やかな惑星や星雲、星団の観測が可能となっている。また、天候の良い日には昼間でも太陽の黒点などを観測することができる。さらに、展示室にはコンピュータを活用したさまざまなシステムやゲームが設置されており、宇宙を体感できる工夫が施されている。小さな子どもでも十分に楽しめる施設であるため、家族連れで訪れてみてはいかがだろうか。

これからも、高校宇宙部の活動やJAXAのロケット、天文現象などについて執筆していく予定である。ぜひ、掲示されている施設を訪れ、本新聞を読んでいただきたい。



↑「宙の家」の中に掲示されている「志す宇宙は無限」(枠の中)

画像:宙の家

第12回体育祭

4月25日土曜日楠隼高校の校庭で第12回体育祭が行われた。今年の体育祭は昨年と違い、初の通学生受け入れや共学化により注目を集め、多くの来客もあり、大きな盛り上がりを見せた。

部活動行進では、「志す宇宙は無限」のQRコードや望遠鏡を担ぎ、来客者に宇宙部をアピールすることができた。他の部活動もそれぞれが個性的なパフォーマンスをされており、それを見た会場の各所で歓声や拍手が起こっていた。

残念ながら、雨のためプログラム変更となり、部活動対抗リレーは中止されてしまった。しかし、楠隼生たちは仲間と共に体育祭を楽しみ、思い出に残る一日を過ごすことができた。

今回の体育祭は楠隼中高一貫教育校の新たなスタートを感じさせる特別な行事だった。今月13日は、文化祭が開催される。ぜひ、御観覧いただきたい。



↑新聞アンケートQRコード
みなさんの御意見・御感想をお聞かせください。

日本の企業が宇宙のごみ掃除!

身近な宇宙

宇宙ごみ(スペースデブリ)の除去事業などを手がけるアストロスケールと、通信衛星事業を行うスカパーJASTは、5月19日に次世代宇宙インフラの構築に向けた戦略的パートナーシップを結んだ。両社は、人工衛星の点検や修理、寿命延長などを行う「軌道上サービス」の分野で協力し、新たな宇宙サービス事業の展開を目指す。また、スカパーJASTはアストロスケールに出資し、資本・業務提携も行う。

近年、人工衛星の増加により宇宙ごみの問題が深刻化しており、安全で持続可能な宇宙利用が重要な課題となっている。今回の提携では、アストロスケールの衛星接近・捕獲技術と、スカパーJASTの衛星運用の経験を組み合わせることで、宇宙空間の維持管理を支える新しい仕組みづくりを進める。両社は、将来的に宇宙産業の発展を支える重要な技術になると期待している。



画像:アストロスケール

宇宙からのささやき

~2つの大きな問題は重力と事務仕事だ。

重力を打ち負かすことはできるが、事務仕事は時に

圧倒的すぎる。~

ヴェルナー・フォン・ブラウン

ロケット工学者。アポロ計画を牽引し、「アメリカ宇宙開発の父」として知られる。



←この写真はアポロ17号の乗組員によって撮影された地球の写真で、「The Blue Marble」と呼ばれている。地球の表面が光に照らされた最初の鮮明な画像であり、宇宙空間に浮かぶ青く美しい地球の姿は、多くの人々に強い感動を与えた。

(画像:NASA)

2026年6月						
日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9 ★1	10 ★2	11	12	13
14	15	16 ★3	17	18	19	20
21 ★4	22 ★5	23	24	25	26	27
28	29	30 ★6				

←今月の月

宇宙の声

★1(9日)・・・金星と木星の大接近
日没後の西の低空で、金星と木星が2度未満まで大接近する。双眼鏡でも見ることのできる明るさになる。

★2(10日)・・・H3ロケット打ち上げSRB(ロケットの横についている小さなロケット)がついていない、最も低コストである「30形態」での初のフライトとなる。本格的な運用の第一歩である重要なミッションになっている。

★3(16日)・・・水星が観望チャンス
水星が「東方最大離角」を迎え、夕方方の西の空で非常に見つけやすくなる。東方最大離角とは、水星や金星などの内惑星が地球から見て太陽から最も離れ東側に見えること。

★4(21日)・・・夏至
1年で最も昼が長く夜が短い日のこと。暦の上では夏至の日から約15日間を指す場合もあり、この日を境に本格的に暑くなるといわれている。また北欧(スウェーデンやフィンランド)では、1日中太陽の沈まない白夜となることも多くなる。

★5(22日)・・・うししかい座流星群
六月下旬ころに突発的な出現を見ることがあり、多いと1時間に数十個流れるときもある。

★6(30日)・・・ストロベリームーン
主に6月の満月のこと。アメリカの先住民が季節を把握するために付けたい呼び名に由来しており、この時期は野イチゴの収穫にちなんで名付けられた。また、名前のイメージから「好きな人と一緒に見ると永遠に結ばれる」や「恋愛運が上がる」といった言い伝えもある。